

襖絵「堅香子図」と共に エスタシオン音楽鑑賞会

天空の里にカヤグムの音色

ゆきの灯り

第59号

令和3年12月発行
油木協働支援センター
TEL 82-0701
FAX 82-2228

生涯学習マスコット：マナビィ



12月5日(日)に小野の天徳寺において文化イベントを開催しました。

開演前の挨拶で高橋道英住職は、カタクリが大好きで修業時代に「カタクリは種から7年掛かって開花する生態を知り、自身に対して焦らずゆっくりで良いとカタクリから教えられた。」とのエピソードを紹介されました。

その話を受け、襖絵を描かれた三桝正典先生は、「カタクリの話を中心に聞いて感動し、住職のお寺の襖絵を描きたいと申し出て描き上げたカタクリの古名「堅香子(カタカゴ)」図と、そのカタクリに蜜を求めて集まるギフチョウです。」とお話を頂きました。

いよいよ演奏です。演奏は襖絵7枚に囲まれた奥の間。エスタシオンはボーカルのユーコさん、カヤグム演奏のサンミさんのグループです。カヤは朝鮮半島の滅亡した小国の名前、グムは漢字で琴と書きます。日本の琴とハーブの中間の音色を想像してください。カヤグムの独演「海の歌」を含む約一時間の演奏でした。



エスタシオン
手前がユーコさん
奥がサンミさん



三桝先生の堅香子図 このほかに7面の襖絵があり、記事に出た蝶も舞っています。是非見に来て下さい。



盛り上がる観客の皆さん
手拍子でも盛り上げます

その中で、今回のイベントに合わせてカタクリの花という曲を作って披露されました。さびの部分で、「今はまだ旅の途中 進むだけ自分を信じて 顔を上げ 君らしく咲けばよい」と繰り返し歌われる歌詞に勇気ももらいました。この曲は彼女らから高橋住職夫妻へ捧げられました。

やわらかく深い音色の演奏と透き通った歌声で観衆を魅了し、アンコールを披露して演奏会が終わりました。

三桝正典先生に聞く
の襖絵を描くにあつたのエピソードを聞かせてください。

「住職の話を聞いて感動し、カタクリを襖絵にして寄贈したいとの話がまとまりました。絵の構想に時間はかかりましたが、描き始めると3ヶ月で描き上げました。実際のカタクリの花を見ながらではないため、花色や葉の陰影に苦労しました。仏間の両側の襖絵を描き終えた後、ギフチョウの話聞いて、ギフチョウの構図はその場で浮かびました。」

最後に今回の完成披露と演奏会がマッチして素晴らしかったと仰っていました。

いきいき百歳体操!

油木コミュニティセンターを会場に、市場地域の方々を対象に毎週水曜日の午後「いきいき百歳体操」を開催されています。

今年度も一時期「新型コロナウイルス」の影響で中止となった時期もありましたが、秋以降再開されて多くの皆さんが油木協働支援センターを訪れ、体操に取り組まれています。

参加の目的は「体力づくり」が第一ですが、日頃なかなか会えない人と週一度直接会って話ができるというのも大きな魅力でもあるようです。

みなさん、とてもお元気でなによりです。



みんなの交通安全

油木保育所・油木学区交通安全自治会・神石高原町消防団油木方面隊・福山北防犯連合会油木班・福山北警察署油木交番の共催で油木保育所園児による交通安全パレードと、園児によるクリスマスツリーの飾りつけが行われました。

園児たちは元気にパレードを行い、歓声を上げながら飾りつけを楽しんでいました。

園児たちの書いた交通安全の願いが叶うよう、まずは大人が自覚しましょう。



大人の教室

パン教室・手芸倶楽部

11月30日(火)、平田サエ子先生、12月1日(水)、若林佐都子先生を講師に招き「大人の教室」を開催しました。

「パン教室」のテーマは、「クリームパン」と「かぼちゃのバイクドチーズケーキ」。参加した皆さんは先生のアドバイスを熱心に聞きながら手際よくパン作りに取り組んでいました。

「手芸倶楽部」のテーマは、「消しゴムはんこ」。来年の干支の「トラ」をモチーフにして、はんこの作成に取り組みました。彫刻刀は普段使う機会がないにも関わらず、皆さん器用に彫り進め、オリジナル作品を作りました。

「ケーキ作り」「はんこ作り」と気分的にも年末気分になってきました。慌ただしい日々が続きますが、気持ちにゆとりを持つ意味でも趣味や特技に取り組むことも大切です。



パン教室



手芸倶楽部

お知らせ「年活年始の閉庁・閉館」について
油木協働支援センター

12月29日(水) ~ 1月3日(月)

分室「にしかわ」

12月28日(火) ~ 1月4日(火)

にしかわ化石館

12月28日(火) ~ 1月4日(火)

ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

学習の拠点「にしかわ化石館」の活用、まずは地元から！

地域ふれあい行事

神石高原中学校

11月5日(金)、神石高原中学校の油木地区在住生徒が「地域ふれあい行事」で「にしかわ化石館」を訪れました。

旧西川化石標本室時代に来館した事がある生徒も何名かいたようですが、多くの生徒は初めての見学で、オキナワアナジャコを中心とした故西川功氏の蒐集されたコレクションの価値を改めて感じているようでした。

また、体験活動も1グループ30分の設定時間が足りないくらい集中して、「化石発掘体験・石膏どり体験」を行うことができました。

今回の「地域ふれあい行事」を通じて、中学校側が設定された「地域のよさの発見や思い出につながる体験を増やしたい」という基本的な考え方の一助になれたのではないだろうか。

理科校外学習

油木小学校

11月30日(火)、油木小学校6年生が「理科」の授業で「にしかわ化石館」を訪れました。

今回は「地層のつくり・化石・地層のでき方・火山のはたらき」による地層等」という理科の学習内容の一環でした。

学校ではどうしても写真や模型を使用している授業が中心となることも多く、今回の訪問で実際に「本物の化石に触れる・体験ができる」「専門の担当者からの説明が聞ける」等、中身の濃い学習ができたこと同時、「故西川功氏の「化石」や「地域」に対する思いや熱意も感じる」ところができたと思います。



神石高原中学校



油木小学校

「にしかわ化石館」では、学校・地域等の行事や活動における団体利用も受付けています。利用希望がある場合は、油木協働支援センターへご連絡ください。

油木協働支援センター 82-0701



にしかわ化石館来館者の状況(10/04~11/30)

町内(学校団体利用含)		町外	
10月	125名	10月	70名
11月	79名	11月	37名
町内来館者内訳			
油木	125名	三和	60名
神石	8名	豊松	11名

地域の「にしかわ化石館」

11月19日(金)、神石高原町観光協会の富山公明さんを招き、今後の「にしかわ化石館」の活用について意見交流を行いました。

今回は有効な広報の方法とともに、観光協会側の企画等も伺い、他の観光資源との組合せによる集客や受け入れ態勢の実情等、現実問題を踏まえての協議となりました。

現在はマスコミ報道の効果もあり、開館日には町外からの来館者も多く賑わいをみせていますが、時間の経過とともにブームが去ることを危惧しており、「にしかわ化石館」としても館内展示や利用方法の工夫を検討しているところです。

協議中にも福山市や三原市からの来館者があり、関心の高さを感ずります。

故西川功氏が遺された化石を通じて、学習の場としての教育効果とともに、観光資源として地元経済効果が波及するよう関係機関の連携が重要と感ずります。



キッズがんぼる！

「ゆきキッズ」が開催され、各教室とも参加した子どもたちが、さまざまな体験活動を通して交流を図りました。



にしかわ展示室 冬の企画展のご案内

にしかわ化石館開館協賛企画第2弾 懐かしのグッズ・おもちゃが「にしかわ展示室」へ登場！ 「にしかわ」で、昭和40年代〜50年代の小中高生の世界へタイムスリップしませんか？

あの頃は、「あんなこともあったな」と、ほくそ笑む

にしかわ化石館開館協賛企画 PART II

わんぱく 冒険少年展

ほくらのヒーロー・ヒロインが甦る！

楽しかったなあの頃は...

特別展示協力 豊松協働支援センター・昭和のおもちゃ館 三谷正士さん(三和)

会場 油木協働支援センター1階展示室「にしかわ」
開館 月・水・金(11:00~19:00) 年末年始・祝日休館

令和3年12月8日(水)~令和4年1月31日(月)

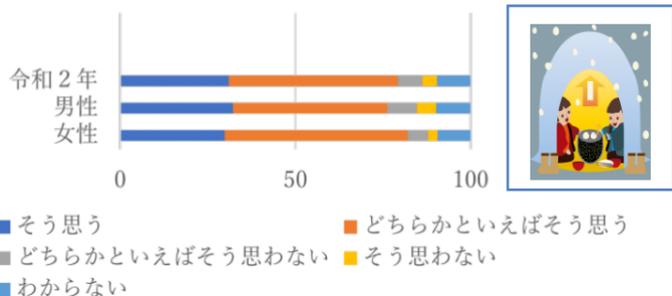
家でやる年中行事にも深い意味があるんだね。「出典：文部科学省」

正月・ひな祭り・端午の節句・七夕・誕生日・クリスマス・暮れの大掃除など、家庭内の行事では家族とのふれあいが深まるだけでなく、高齢者など世代の異なるさまざまな人々とのかかわりやつながりができるなど、地域社会へも目が向くきっかけになります。しかも、日本の文化・伝統に親しむとても良い機会でもあります。

また、初詣や節分で無病息災を祈ったりすることは、人間の力を超えたものへの畏敬の念を深めるなど宗教的な情操を育むことにもなります。



「伝統的な祭りや歴史的な建物などの存在が、その地域の人々にとって地域への愛着や誇りとなる」との考え方についてあなたはどのように思いますか。



資料 文化に関する世論調査
日本国籍を有する18歳以上
3000人 令和2年 文化庁



—地域の子どもを見守り育てましょう— (油木協働支援センター)